

会議録（要旨）

1. 開会
2. 委員長あいさつ

＜事務局から報告＞

令和3年第3回八潮市議会定例会（7月20日から8月11日まで）において、令和2年度に提出した「八潮市市民活動推進委員会報告書」に関する総括質疑があったため、その内容について説明を行った。

3. 議事

- (1) 市民活動支援センターの設置について

＜事務局説明＞

資料に基づき、事務局より説明を行った。

＜委員からの意見＞

- ・ 令和元年に実施された八潮市市民意識調査では、過去1年間の地域活動（町会・自治会、NPO、ボランティア）への参加状況について、「積極的に参加している」と回答したのは3.6%、「時々参加している」は13.5%、「あまり参加したことがない」は15.1%、「参加したことがない」は65.1%であった。結果からみると、約8割の方が地域活動に参加していないようである。参加していない方の理由は、「活動に参加する時間がない」と回答したのは35.9%、「活動についての情報がない」は19.9%、「活動するきっかけがない」は19.7%と続く。市民活動支援センターは、できるだけ多くの方が利用する施設になることが望ましい。
- ・ 市民活動支援センターはわかりやすい形になることが望ましい。やしお生涯楽習館（以下、楽習館）という名称に親しみがあるという意見もあったが、先ほどの意見のように約8割の方が参加していないのであれば、新住民の方や時間が無い方には「楽習館」という名称も認知されていない可能性があるのではないか。
- ・ 市民活動支援センターは、実施主体も運営委員会も、民間に委託した方が動きやすいのではないか。
- ・ 楽習館にはレファレンス・検索機能がなく、不便に感じる。市民ニーズの掘り起こしが足りていないのではないか。市民活動支援センターは利用者が「ここに来れば、できる・使える」と思える場所になることが望ましい。また、センター化にあたって、現状のコーナーから明確な差がないと、ごく一部の利用者にはプラスにならないのではないか。
- ・ 行政との連携機能については本委員会でも議論されているが、組織の形成や運営を検討する際に、機能を重視して話を進めると運用が始まってから難しい面が出てくるので注意するべきである。
- ・ 現時点では、A案が良いのではないか。生涯学習は、個人的な要請に基づくものと社会的な要請に基づくものの2つの学習から成り立っており、楽習館もその2つの学習を重視し設立されたことが設置目的から推測される。B案だと、個人的な要請に基づく学習が見えづらくなってしまう可能性がある。

- ・ A案を採った場合も個人的な要請に基づく生涯学習を社会的な要請に基づく生涯学習へ繋ぐ役割が重要になる。地域課題・現代的課題の解決のためには、繋ぐ役割を担うスペシャリストの養成といった、「連携」の中身が重要になる。
- ・ 一步踏み出すことが大切なのではないか。市民活動支援センターを設置し、A案で一步踏み出し、修正が必要であれば随時検討していくという手法もあるのではないか。
- ・ レファレンス機能について意見があったが、インターネットを用いた情報提供や検索機能もニーズがあるのではないか。
- ・ 令和元年に実施された八潮市市民意識調査では、市からの情報の入手方法について、「広報紙」と回答したのは38.5%、「市ホームページ」が25.8%、「町会・自治会の回覧板、掲示板」が25%、「知人に聞く」が15.1%、「関係機関に直接問い合わせ」が7.3%と続いた。インターネット上でいつでも情報が得られるというのはニーズがあるのかもしれない。
- ・ 市民活動について関心が高まっていないのは、八潮市に市民活動支援センターが設置されていないからではないか。市民活動支援センターには、職員自ら地域に出向き、市民活動団体等へ取材するなど積極的な姿勢が望ましい。
- ・ 地域福祉の推進は住民主体であり、市民意識の高揚を扇動する役割を市民活動支援センターが担っていけると良いのではないか。
- ・ A案B案に関わらず、市民活動支援センターが市民ニーズに沿ったより良い支援や体制を整えることが重要である。
- ・ 新しい何かをつくることで新しい展開を期待しているところだと思うが、急激な変化は、実行や市民への浸透が難しいと考える。現状から考えるとA案が良いのではないか。他の委員の意見にもあったが、連携の中身や、その周知が重要だと考える。いずれ軌道に乗った時に、B案へ移行する選択肢も考えられる。
- ・ 運営委員会は、その職務にあたる方の人材が重要になるのではないか。
- ・ 「生涯学習館（楽習館）」という名称は、全国最初であった。「生涯学習」は、30年ほど前まで「生涯教育」という名称だったが、中曽根元総理大臣直轄の臨時教育審議会において教育という堅い言葉ではなく、自発的な意思で自由に学ぶ意味を持たせるため学習という言葉に切り替わった。生涯学習は自己の向上と生活の向上につながり、生活に密着することから、文部科学省だけでなく通商産業省にも関係局が置かれた。生涯学習が産業育成から経済振興につながると着目したのが、日立市や軽米町、亀岡市、掛川市、そして八潮市でありその他の市町村はまだ狭義であった。その発想を変えるため文部科学省は全国生涯学習フェスティバルや全国生涯学習まちづくりサミットを開催した。このころ、八潮市は生涯学習都市宣言を行い、楽習館が設立された。それから30年が経ち、安倍元総理大臣は「人生100年時代」にあたってこれからは生涯学習の時代だとした。委員のみなさんが生涯学習について市民に説明できるよう、生涯学習と八潮市の経緯を簡単にお話しさせていただいた。

<採決>

課題①～③について、「A案」、「B案」、「A案から将来的にB案へ移行する案」の3つの選択肢で多数決を行い、挙手多数により、委員会としての方向性は「A案から将来的にB案へ移行する案」に決定した。

<まとめ>

令和2年度に提出した報告書に記載した、今後検討が必要な課題①～③について、委員会としての方向性は「A案から将来的にB案へ移行する案」とし、改めて提言書の原案作成に取り組んでいく。

4. その他

・次回の委員会について

11月17日（水）午後2時から やしお生涯学習館 多目的ホール

・協働のまちづくり推進事業助成金令和3年度交付団体の活動進捗を報告

5. 閉会